

船橋市立リハビリテーション病院 第5次中期目標達成状況評価（案）

1. 採点基準及び評価について

第5次中期目標達成状況の評価にあたっては、各目標ごとの評価を行うものとし、それぞれに4段階の採点を行った。評価および採点の基準は以下の通りである。

【評価】

- S・・・目標が十分達成されている
- A・・・目標が達成されている
- B・・・目標が概ね達成されている
- C・・・目標が達成されていない

※事務局注

【採点の基準】

目標1 在宅復帰率

目標2 市立リハビリ病院へ入院してから退院するまでの日数(平均在院日数)

目標3 リハビリテーション効果(FIM)

疾患全体が

S・・・目標を達成している。

A・・・目標値の95%以上で達成している。

B・・・目標値の80%以上で達成している。

C・・・目標値の80%未満である。

目標4 入院患者満足度

目標5 外来患者満足度

目標6 訪問患者満足度

<細項目の採点基準>

・各目標中の細項目で、目標を達成している・・・S

・各目標中の細項目が目標値の95%以上で達成している・・・A

・各目標中の細項目が目標値の80%以上で達成している・・・B

・各目標中の細項目の実績が目標値の80%未満である・・・C

<目標の評価>

S・・・細項目がS・Aのいずれかで構成されており、Sの割合がAの割合以上である

A・・・細項目がS・Aのいずれかで構成されており、Sの割合がAの割合未満である

細項目がS・Aのいずれか及びBで構成されており、S・Aの割合がBの割合以上である

B・・・細項目がS・Aのいずれか及びBで構成されており、S・Aの割合がBの割合より少ない

細項目がS・A・Bのいずれか及びCで構成されており、S・A・Bの割合がCの割合以上である

C・・・細項目がS・A・Bのいずれか及びCで構成されており、S・A・Bの割合がCの割合より少ない

目標7 病床稼働率

目標8 経常収支比率

項目の実績値が

S・・・目標を達成している。

A・・・目標値の95%以上で達成している。

B・・・目標値の80%以上で達成している。

C・・・目標値の80%未満である。

目標9 全職種に対する教育プログラムの実施

目標10 継続的なリハビリテーションサービスの提供体制の構築に努める

目標11 地域住民との良好な関係を築くよう努める

取り組み実施の状況が

S・・・各年度の行動計画以上の事業を実施した。

A・・・各年度の行動計画どおりの事業を実施した。

B・・・各年度の行動計画にある事業は実施回数が少なかった。

C・・・各年度の行動計画にある事業は実施できなかった。

2. 第5次中期目標達成状況評価

目標1 在宅復帰率 (事業報告書 P28、29)

評価：S

疾患全体は88.1%であり、目標値(疾患全体87.0%以上)を達成した。
達成できなかった項目はありつつも、患者全体に対する高い目標値に向けたアプローチがしっかり行えていたと考えられる。

目標2 市立リハビリ病院へ入院してから退院するまでの日数 (P30、31)

評価：S

疾患全体は71.5日であり、疾患全体の目標値(79.0日以下)を十分に達成した。
患者が望む早期の在宅復帰に向けた在院日数の削減が出来ていた。

目標3 リハビリテーション効果(FIM) (P32、33)

評価：S

疾患全体は26.4であり、目標値(24.0以上)を10%以上上回る水準で十分に達成した。

各項目においても、脳血管系29.4(目標値25.5)、整形外科系24.1(目標値23.0)、廃用症候群18.7(目標値15.0)と高い水準で目標を達成できていた。

在院日数の削減(目標2)を達成しつつ、リハビリテーションの質を保っている素晴らしい結果となった。

目標4 入院患者満足度 (P34～36)

評価：A

各項目において、目標がほぼ達成されていた。

入院するまでの手続き・期間、退院後の生活説明、療養環境、病院案内・掲示において満足度がやや不足した部分はあったものの、それ以外の項目は高い満足度を得ていた。

目標5 外来患者満足度 (P37、38)

評価：A

各項目において目標がほぼ達成されていた。

リハビリテーションの満足のみが目標値に満たなかったもので、それ以外の項目は全て目標を達成していた。

目標6 訪問患者満足度 (P 39、40)

評価：A

各項目において目標がほぼ達成されていた。

訪問リハビリテーション、時間帯・スケジュールの項目において、目標値をわずかに下回ってしまったが、職員の対応の項目については高いレベルの満足度を得ていた。

目標7 病床稼働率 (P 41、42)

評価：S

実績は96.2%であり、目標(95.0%以上)を達成した。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、200床に対して80.0%という結果となったが、令和3年度は20床を休床としたほか、継続した営業活動の甲斐もあり、180床に対する数値で目標を達成することができた。

※令和3年度は患者数の減等により稼働病床180床で運営を行ったことから、180床に対する病床稼働率の数字で評価を行った。

目標8 経常収支比率 目標 (P 43～45)

評価：A

実績は101.8%であり、目標(102.5%以上)をほぼ達成した。

積極的な営業活動に加え、医業費用の削減に努めた結果であると考える。

※令和3年度は患者数の減等により稼働病床180床で運営を行ったことから、180床運営による経常収支比率の数字で評価を行った。

目標9 全職種に対する教育プログラムの実施 (P 46)

評価：S

法人内の研修や研究発表をWEB形式に切り替えて実施するほか、外部のWEB形式の学会や研修会へも積極的に参加していた。

新型コロナウイルス感染症の影響が引き続く中、従来どおりの教育プログラムを実施するように、指定管理者として努力していたことがうかがえる。

目標 1 0 継続的なリハビリテーションサービスの提供体制の構築に努める (P 4 7)

評価：B

令和 2 年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響で、入院患者及びその家族並びに市内の地域リハビリテーション関係者に対する、回復期リハや生活期リハについての勉強会・連絡会議等を開催することはできなかった。

しかしながら、退院後も外来・通所・訪問リハビリテーションサービスを実施するとともに、地域リハビリテーション関係者の紹介・相談・助言を行うなど、退院後の継続的なリハビリテーションの実施が促されていた。また、中止とならなかった市の事業にも積極的に参加し、リハビリテーションの立場から船橋市全体へ貢献していた。

目標 1 1 地域住民との良好な関係を築くよう努める (P 4 8)

評価：C

令和 2 年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響で、市民公開講座、患者家族教室やロビーコンサートなどを開催することができなかった。

コロナ禍において、入院患者が生活している病院に外部の市民を招くイベント等を実施することは、非常に難しいものであったと考えられる。